

「一農ネット交流会 in 近畿」の概要

平成 29 年 11 月 22 日（水曜日）、大阪市内において、「一農ネット交流会 in 近畿」を開催しました。

この交流会は交流する機会が少ない新規就農者や就農予定者などの皆様の頑張る仲間づくりを応援することを目的として平成 27 年度から開催し、第 3 回目となる当日は、就農を希望する方から就農されている方までの 26 名の方に参加がありました。

まず、奈良県の非農家出身で平成 27 年に地元とは別の奈良県広陵町で就農された「松尾農園」の松尾秀樹氏から「就農準備と就農の体験」と題して、アメリカでの農業研修や新規就農されてからの実体験について講演いただきその後、兵庫県の非農家出身で兵庫県加古川市で就農されて 10 年目を迎える株式会社 LEAD 代表取締役の都倉貴博氏から「夢無きものに成功なし～あなたの夢はなんですか？～」と題して、アパレル業界から農業界に転身し、農業に魅了され、青年農業者との繋がりを構築した体験について講演頂きました。

また、意見交換会では、参加者全ての方から自己紹介を行った後、講師を交えて意見交換を行いました。

その中でも特に、農地取得に伴う不安を訴えるご意見が多く、活発な意見交換となりました。

参加者からは、交流会について「今後の農業経営に役に立つと思う。」「興味・関心もてる内容だった。」という感想がありました。



先輩農業者の講演



意見交換会



参加者での集合写真

一農ネット交流会 in 関東(H30.2.2)を開催しました。

平成30年2月2日(金)にさいたま新都心合同庁舎2号館で「一農ネット交流会in関東」を開催しました。

本交流会は、点在する新規就農者が、県域を越え日頃の悩みや、抱える問題を話し合える場、農政の最新の情報を収集できる場として開催しています、今回で3回目の開催となりますが、開催1週間前には都心で48年ぶりに氷点下4度を記録するなど、平成になってから最強となる寒波の影響を受け、雪降る中の開催となりました。

交流会では、日本政策金融公庫から、「融資機関からみた新規就農・経営拡大時の留意点」と題して、融資に際して必要な事業計画等の作成のポイント等のほか、販売戦略やビジネスモデルの立て方を統計DATAや参考事例を交えてわかりやすくお話しいただきました。

続いて、農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金）を活用しながら経営を軌道に乗せた2名の先輩農業者からお話をいただきました。

埼玉県本庄市で就農された大塚悟さん[H22.4:就農]は、埼玉県農業大学校での1年間の実践研修を経て就農され、加工品等の六次化にも取り組まれています。

群馬県みなかみ町で就農された武浩之さん[H27.2:就農]は、農林水産省を退職されて農業法人での1年間の研修を経て就農され、茶豆、ブロッコリー等を主に栽培されています。



先輩農業者の講演

2名の先輩農業者から就農に至った経緯や現在までの苦労話等をお話いただきその後、参加者全員からの自己紹介の後、意見交換を行いました。

研修中の方からは、
①経営体育成支援事業と経営発展支援金の重複活用は可能か等の補助事業の活用条件などについて、

営農中の方からは、
②パートから正規雇用に切り替えるタイミング、
③就農地や営農品目の選択の理由、設備投資のあり方等について意見交換が行われました。

意見交換会終了後は、参加者全員での情報交換会(懇親会)も開催し、個別の情報交換を行い交流を深めていただきました。



参加者での集合写真

「一農ネット交流会 in 中国四国」の開催概要

平成30年2月21日（水）、香川県高松市内で「一農ネット交流会 in 中国四国」を開催しました。

経営の今後を相談したり、仲間作りのため、中国四国地域の青年新規就農者・研修生が約50人参加しました。

先輩農業者の取組紹介では、島根県の鉢物花き農家 多久和農園 多久和 美由紀 氏から、アメリカの大学で専攻したデザインの知識を活かし、花の色やイメージに合わせて、ラベルをデザインするなど花の魅力を最大限活かす工夫、寄せ植え教室の開催などの花に親しんでもらうための取組等についてお話いただきました。

また、徳島県でさつまいもの生産・販売・加工を行う（株）農家ソムリエーズ 代表取締役社長 藤原 俊茂 氏から、青年農業者6人で設立した法人や海外輸出の取組、新規就農者へのアドバイス等についてお話いただき、中国四国農業青年クラブ連絡協議会 理事 高橋 光男 氏から、農業青年クラブ（4Hクラブ）の活動について紹介いただきました。

その後のグループディスカッションでは、参加者から各自の課題と解決方法、10年後の夢についての発表や先輩農業者からのアドバイスなど活発な意見交換が行われました。

参加者からは、「今後も交流会を続けて欲しい」、「先輩農業者から実体験に基づくアドバイスがもらえてよかった」、「農業青年クラブに入って人脈を広げたい」といった声がありました。さらに、交流会終了後に開催した情報交換会では、連絡先の交換や作目を越えた情報交換など、より深い交流が行われました。



先輩農業者の取組紹介



グループディスカッション①



グループディスカッション②



参加者の皆さん

東海地域一農ネット交流会を開催しました！

平成30年2月28日（水）、名古屋市内で「東海地域一農ネット交流会」を開催しました。参加者は、講師等を含め24名でした。

本交流会は、新規就農者や女性農業者が、県域を越えて、日頃の悩みや抱える問題を話し合い、また、最新の農政情報を収集できる場として開催しています。東海農政局による開催は今回で3回目です。

講演では、愛知県幸田町でイチジクを栽培する三州フルーツ工房の鈴木 誠（すずき まこと）さんから、高付加価値販売を実践しているご自身のビジネスモデルを軸に、効果的な販売方法や宣伝方法、また、人との出会いや商品の美味しさを伝える大切さについてお話いただき、参加者は熱心に耳を傾けてメモをとっていました。



事例報告は、愛知県田原市で平成27年に就農し、農業女子プロジェクトメンバーとしても活躍中のPatch Farm（パッチファーム）中川 倫子（なかがわ ともこ）さんから、「おいしい、たのしい、うれしい」がモットーのご自身の営農や将来の夢などについてお話いただきました。続いて岐阜県恵那市で平成28年に就農し、夏秋トマトを栽培する窪田 菜那（くぼた なな）さんから、地域で唯一の若手農業者として、ご自身が就農に至った経緯や現在までの苦労話などをご紹介いただきました。

その後、参加者全員が自己紹介した後、グループに分かれて意見交換を行いました。研修中の方は「自分がこれから作りたい品目」「初期費用の目安」など、就農中の方は「売れるための商品の最適なパック量や包装方法」「自分の経営の適正規模」「効果的な価格設定や販売方法」などについて活発な発言が飛び交いました。



参加者の方々からは、先輩農業者の貴重な体験談を聞いたこと、日頃交流できない新規就農者・女性農業者との情報交換やネットワークづくりができたことなど、とても有意義であったとの感想をいただきました。

意見交換終了後は情報交換会（懇親会）において、参加者同士で日々の農作業や生活のこと、経営の将来のことなど、楽しく語り合いました。本交流会をきっかけに知り合った参加者同士が、今後も交流を深めていただければ幸いです。

「一農ネット交流会 in 東北」を開催しました！

東北農政局では、平成30年3月1日（木）、仙台合同庁舎 B棟（仙台市）において、「一農ネット交流会 in 東北」を開催しました。

当日は、（一社）アグリフューチャージャパン及び（一社）食農連携機構が主催する「農業経営力養成講座 in 東北」も一連の行事として開催しました。同講座では、独自のビジネスモデルにより東京都内で青果店を営む（株）アグリゲート 代表取締役 左今克憲氏の講演とその後、東北の青年農業者2名を交えたパネルディスカッションが行われ、参加者が農業経営の可能性を感じられる内容となりました。

一農ネット交流会は、養成講座に参加した者約30名の青年農業者・就農希望者を含む約50名が4グループに分かれ、それぞれが目指している農業経営の実現に向けての課題や解決方法について意見交換を行いました。

課題は多岐にわたりましたが、青年農業者からの「販売の絶対量が不足」、「JA以外の販路確保も必要」など売上げに関する課題に対しては、「農業は営業しやすい」、「品質の向上に取り組んでいる」などのコメントがあり、また就農希望者からの就農地選定に関する相談に対しては、「やりたい作物の産地」や「指導者がいる地域」を選ぶべきといったアドバイスがありました。このほか「食育や農業体験活動を通じ農業の魅力を伝えたい」など、地域に積極的に貢献したいとの話もありました。

意見交換終了後、交流会（懇親会）を開催し、青年農業者や就農希望者、養成講座の講師やパネリスト、就農支援機関や農政局幹部の約40名が、初めての出会いも多量で情報交換を行い、交流を深めました。当日は、大雨・暴風の悪天候で、開催が危ぶまれた中、最後まで参加していただきありがとうございました！



「農業経営力養成講座 in 東北」講演&PD



「一農ネット交流会 in 東北」グループ討議



「一農ネット交流会 in 東北」に参加した皆さん